

学部・研究室
レポート大学の学部・研究室の
「今」を紹介します

「考古資料は嘘をつかない」

発掘調査をベースとする考古学の世界は、
だからこそ面白い!

大阪大学 大学院 文学研究科 教授

福永 伸哉さん

史跡や古墳の調査で、時に、大発見がニュースになるなど、歴史への興味をかきたてる考古学の世界。今回は、数々の古墳発掘や三角縁神獣鏡の研究で知られる大阪大学大学院の福永伸哉先生に、考古学の面白さや可能性、研究内容などについてお話をいただきました。



1つの遺跡を発掘し、調査分析をまとめた資料が、他の発掘調査の貴重な参考資料となる



過去の人間の活動や
取り巻く環境を研究する

「考古学」というのは、どのよ
うなことをする分野なのでしょうが。

考古学は、以前は過去の人工物資料
を用いて、人間の活動やその変化を研
究するという学問でした。

しかし、この30年ほどの間に、扱う
分野が急速に広がっています。とい
うのも、自然の遺物、例えば花の種や
果実の種、虫などを調べて、人間が活
動していた環境をも研究するようにな
ってきたからです。取り囲む環境も含
めて、人類を捉えようという考え方に
なってきたということでしょう。

個別の学者が研究する範囲の広さ
は、地域や時代など、その対象によっ
て変わります。例えば旧石器時代の場
合は、世界中に関連資料が存在してい
ますから、範囲は広くなりますよね。

私为主として扱っているのは、弥生
時代、古墳時代ですので、基本的に
日本を対象としています。とはいえ、
国家というものが形成されていく過程
の時代ですから、他国の場合と比較研
究することもあります。特に、中国や

朝鮮半島との関わりは深いです。直接
的に、密接に関わりがありますから。

大学主導で実施する
発掘調査の意義

大学では、どのようにして発掘
に携わるのでしょうか。

日本における発掘は、その9割以上
が土木工事に先立って教育委員会等が
行う行政的なものです。残りの1割弱
が大学や研究機関の主導で行う学術目
的の発掘です。

大学主導での発掘では、調査の企画
段階からすべてを行います。まず、研
究テーマがあり、それに従って、どう
いう遺跡を掘るのかを決めます。次に、
どれくらいの規模のプロジェクトにな
るかを算出。地主さんと教育委員会な
どもも交渉を行います。掘るためには
機材も必要ですし、長期間滞在するた
めの宿泊施設も押さえないければなりま
せん。そんな準備をすべて行っただう
えで、発掘、調査となるわけです。

調査が佳境に入ったら地元で現地説
明会をします。終了したら元に戻し、
市民向けの報告会です。同時に出土品

を整理して、調査報告書もまとめます。

教育委員会等が行う発掘調査にも学
生は参加していますが、専門的な作業
を担当する場合はほとんどなので、企
画から最終報告書まで通しての流れを
つかむことは簡単ではありません。で
すから、当大学では毎年、大学主導の
研究発掘を行って、作業のすべてに関
わってもらうようにしています。

今、手がけておられるのはどん
な発掘調査ですか。

この大学でテーマにしているのは、
「日本の古代国家の形成過程を明らか
にすること」です。地域を限定して、
まずは地域研究をします。近年、フィ
ールドとしているのは、「猪名川流域」、
大阪と兵庫の県境エリアの、川西、伊
丹、宝塚、豊中。古墳を発掘したり、
他のチームの調査結果を見たりしなが
ら、地域の古墳がどんな順番でどのよ
うに造られたのかを検証しています。

現在は、宝塚の古墳を扱っています。
なかなか大掛かりで、プロジェクトを
立ち上げたのが4年前です。毎年発掘
を行っていて、今年の8、9月に最後
の調査を行う予定です。

考古資料をたどってわかる
古代豪族の勢力図

発掘調査をしてわかってくることは、どんなことがありますか。

古墳時代とされる3〜7世紀、このエリアには、いくつかの豪族勢力がありました。そして、年代によって、強くなっている地域が異なります。同様に、畿内エリアの、いわゆる大王の古墳も盛衰があるのです。そして、この大王の盛衰は、猪名川の豪族の盛衰とも密接に関わっています。

一例ですが、宝塚に、「長尾山古墳」があります。これは、実際に掘り始めるまでは、5世紀初めの前方後方墳だろつと言われていました。しかし、4年前の調査で、実は4世紀初めに造られた前方後円墳だということがわかったのです。そして判明したのは、宝塚のエリアには5世紀の古墳がない、つまり空白の期間があるということでした。これは、近くの桜塚古墳群を形成している、豊中にいた豪族が、この時期、非常に強くなっていたことと関係しています。そのため猪名川の他エリアの豪族は、古墳造りをストップさせ

られたのです。

さらに、この桜塚古墳群から出る副葬品は、百舌古市古墳群（堺・藤井寺・羽曳野）で出る副葬品と非常によく似ています。ここから百舌古市古墳群との系列関係が推測できました。そして、6世紀になると、百舌古市古墳群は、急激に規模が小さくなります。同時に、桜塚古墳群でも有力古墳がなくなってしまうのです。

こうして豊中エリアが没落すると、入れ替わって勢力を拡大するのが、川西エリアです。横穴式石室をもつ「勝福寺古墳」などが例ですが、6世紀はじめに突然、勢力が復活しています。

同時に中央でも、勢力図が変わりました。継体天皇陵の可能性が高い高槻市今城塚古墳が天皇陵としては初めて淀川流域に造られます。この今城塚古墳と勝福寺古墳の間には、深いつながりがうかがえます。

その理由は出土品、**埴輪**にあります。勝福寺古墳で出てくる埴輪は、表面に横すじが入っていて、尾張名古屋付近の物と同じ特徴を持っています。この直前150年間ほど、川西エリアでは、埴輪を作っていた形跡はありません。

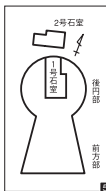
勝福寺古墳発掘調査



2000年より6年かけて行われた調査。兵庫県川西市にある全長約40mの前方後円墳。（現地説明会の資料より）



- z 第2石室の発掘の様子
- x 勝福寺古墳の墳丘と後円部石室
- c 第2石室より発掘された須恵器
- v 発掘された円筒埴輪の一部
- b 石室の位置関係図



なので、久し振りに埴輪を作ることに
なった時、なぜか尾張の工人が関わっ
たということになります。そして、こ
こで面白いことに、継体天皇の妃のひ
とりが尾張の出身だったりしますか
ら、つながるんですよ。

これが考古学の面白さです。怖いと
ころでもありますが、思いがけないと
ころでのつながりから、予想外の結論
が出てきます。そして、つながりを導
き出そうと思うと、自分たちで掘った
遺跡のことだけでなく、さまざまな例
を知っていなければなりません。

先述したように、ひとつの古墳を発
掘するには、3年、4年という時間
を要します。つまり、研究のための比
較を行おうとすると、自力での発掘だ
けでは追いつきません。だから、他の
人が行った調査資料も同時に読み解
き、資料から発掘を体験しながら、
研究することになります。

資料を正確に読むには、それがどの
ようにしてなされた発掘調査なのかを
理解していないといけません。だから
こそ、学生には、必ず、発掘調査の流
れをひと通り体験してもらおうことに
しているのです。

発掘された品を媒介に
古代の人とつながる喜び

今まで発掘された中で、もっと
も印象深かったのは、どちらですか？

滋賀県の八日市市教育委員会の依頼
で携わった、「雪野山古墳」は印象的
でした。なんと言っても、4世紀初め
の竪穴式石室が、未盗掘の状態であ
ります。未盗掘なんていうものは、め
ったにないんですよ。貴重な副葬品が
数多く出土し、卑弥呼の時代の三角縁
神獸鏡も見つかりました。初期大和政
権時代の古墳であることは間違いな
く、かなりうれしかったですよ。

考古学に取り組むうえでの一
番の面白さはどこなところでしょうか？

鏡や石器、土器などの遺物を通して、
3〜7世紀当時の人とつながっている
という感覚がリアルに持てることでし
ょうか。考古学の現場では、理屈では
ない、直感的な部分でそれが感じられ
るんですよ。

また、土器一つにも、重要な情報が
隠れています。例えば、千里丘陵の窯
で作られていた須恵器が継体天皇との

関連が考えられる豪族の古墳からも見
つかります。すると、もしかして千里
丘陵の窯を運営していたのが継体天皇
の系列勢力だったのでは、という仮説
が出てくるでしょう。そんな、隠れて
いる歴史的一幕を、出土品から追って
いくのがとても楽しいのです。

時代と共に調査技術も進み、考古学
を取り巻く環境も変わってきます。そ
して、研究と併せて考えていかなけれ
ばならない、遺跡保存の問題もありま
す。そんなバランスもしっかりと取り
ながら、今後も、出土物の語る歴史の
姿を追っていきたくと思っています。

プロフィール

1959年11月9日広島県生まれ。
広島県立福山誠之館高校卒業後、大阪大
学文学部史学科、同大学院文学研究科に
学ぶ。大阪大学埋蔵文化財調査室助手、
文学研究科助教授を経て、2005年4月より
現職に就き、学生と共に発掘活動を行
いながら、出土品をベースにした古墳時
代政治史を研究。1996年第6回雄山閣
考古学特別賞、2003年大阪大学共通教
育賞、2006年第19回濱田青陵賞を受賞。



先生からの Message

あらゆる方面にアンテナを張っておく。
すると疑問に思っていた点と点が結びつ
き、面となり、形になって現れます。